

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の社会的・職業的に自立する力を育成するための教育課程の編成に取り組む。 ②全教科で生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力の向上を図る授業改善を推進する。	・年間授業時間をふまえながら、新たな教育課程に沿った教務規程の策定を行う。 ・生徒が専門スキルや各種検定、資格取得に取り組むよう推進する。 ・生徒の基礎学力を定着させるために幅広い学習希望の提供を行う。 ・言語活動を各学校の学習活動の中でどのように展開させるのかを意識した授業改善を行う。	・教務規程の細部にわたって見直しを行いながら年間の授業計画をたてていく。 ・生徒が各種検定、資格取得に取り組むよう指導し、スキルアップや資格取得率、合格率向上に向けた体制づくりに取り組む。 ・生徒の幅広い学習希望に応えるため、高大連携事業を推奨し、より多くの体験的・経験的な学習活動に取り組む。 ・授業の意識改革、積極的な公開授業や授業見学のきっかけづくりとして、期間を設け、授業見学を実施する。	・学校全体の共通理解をとりながら、次年度に向けて早めの対応ができたか。 ・計算技術検定や情報技術検定など合格率が昨年度より向上したか。 ・生徒が高大連携などを活用した講義や講演などへの参加が昨年度より増加したか。 ・実施期間内に授業見学を規定回数以上行うことができたか。	・授業時間の確保を考慮しながら授業計画をたて、次年度についてはさらに精査したものを考えた。 ・計算技術検定4級では(前期)76.4%(後期)19.4%の合格率だった。昨年より40.4%下降した。情報技術検定3級では33.0%の合格率だった。昨年より4.4%向上した。 ・湘南工科大学(2年生対象)へ106名の生徒が模擬授業に参加予定である。在籍数の関係で昨年より8名少ない。また、今年度課題研究発表会において講評や大学生による学習支援の依頼をした。	・行事等を早めに把握し、前もって計画を立てておく必要がある。 ・教育課程の変更とともに、現行時間割の大枠の変更も考えてみる必要がある。 ・各種検定や資格取得は、スキルアップにつながるため、合格率が下降した原因を検証し更なる取得率向上を図る。 ・幅広い学習希望に応えるために企業や施設見学などの体験活動の導入に努める。	・教育の質の確保としては、高校生基礎力テストで、全国の高校が序列化されることが予想されるが、下位になると就職等に響いてくるのではと懸念している。 ・資格取得にも積極的な取り組みをお願いしたい。検定料の補助等を検討してもよい。 ・全般的に学習の時間が減ってきている。 ・ものづくりは夢がある。子どもにどうアプローチしていくか。	・ジュニアマイスターのシルバーやゴールドを目指す上でも、資格取得による家庭の負担をできるだけ軽くできるような検討が必要だと思う。 ・検定試験等の結果から本年度は各専門については基礎に重点を置き、指導を行う事ができていた。昨年度と比べ合格率の低下等変化がある部分は、それぞれで対応策を講じる必要があることが分かった。次に教員間における授業改革についても継続する必要性がある。	・学力だけでなく、ものづくりがこんなに面白いのか、役に立つのかというのでモチベーションを上げていく工夫が必要である。 ・大学生による学習支援を実施したい。 ・基礎学力の定着への方策・また、興味関心を持っている生徒への更なる好奇心や技術の指導など幅広く提案できる様職員間の情報交換や技術習得などを行う必要がある。
2 生徒指導・ 支援	①規範意識を身に付けさせ、社会から期待される主体的な行動力をもった生徒を育成する。 ②生徒一人ひとりに応じた学習支援と教育相談体制を充実させる。 ③生徒会活動を活性化させ、自主的、主体的な部活動を推進する。	・卒業後の進路を見据え、挨拶、頭髪服装などの身嗜みなど、基本的生活習慣を身につけ、自律性のある人材の育成を行う。 ・すべての生徒が学校生活を健康で安心して送れるようにする。 ・生徒が行事や部活動に主体的に取り組むとともに、リーダーを育成する。	・登校安全指導、遅刻指導や頭髪服装検査などを通じ、職員が一体となりきめ細かい指導を心がけ、基本的生活習慣や社会性を身につけさせる。 ・発達障害や生徒の抱える課題への理解を深めるため、研修会を実施する。 ・教育相談体制の充実を図るための教育相談CD会議の設置、事例検討会を実施する。 ・生徒会行事や部活動の活性化のための助言をおこない調査を実施する。	・挨拶、身嗜み等の基本的生活習慣が、身についたか。 ・生徒の抱える様々な課題について理解を深めることができたか。 ・SCやSSWとの連携(連絡、相談)が有効に働いたか。 ・生徒会行事、部活動への生徒の参加数や活動意識が高まったか。	・始業式に挨拶、身嗜みについて講話をした。また登校安全指導や校門指導を行い、基本的生活習慣の確立をした。 ・頭髪服装等の指導については、担任・学年・生活指導が協力し、一体となって指導を行った。 ・今年度よりコーディネーター会議をSC同席のもと5回、情報共有の為にケース会議を6回開催し、支援が必要な生徒の情報共有・支援の検討を行った。 ・部活動加入率は全生徒678名中259名38.2%。校外のクラブ活動所属生徒は30名4.42%で加入率は横ばいである。 ・今年より秋入部の制度を導入し1年生5名が新たに入部した。 ・11月の生徒会役員選挙に10名の生徒が立候補し新生徒会が発足した。	・挨拶、頭髪服装などの身嗜み指導については、今後も継続的なきめ細かい指導が必要である。 ・職員研修を行うことで、生徒の抱える問題や保護者とのコミュニケーションの取り方について、知識と理解を深め、生徒支援につなげたい。 ・生徒支援を要する生徒が多く、その状況にあった細やかな対応が難しい。そのためにも、職員研修などを多く取り入れ知識・理解を深めて行く必要がある。 ・部活動を通して共同(協働)活動の中でコミュニケーション能力、計画力を身につけさせていく。 ・部活動の部長や生徒委員会の長となる生徒の自主性を高め責任意識、リーダー意識を向上させる。	・頭髪服装等などの身嗜み指導に関しては、以前より良くなってきている。 ・SSWは高校生活の質を高める効果があり、相談体制の充実に寄与していると思う。 ・部活動、38.2%の加入率と若干減少している。外部の団体に加入して活動している生徒もいる。 ・秋入部という機会を設け加入率の向上を図った。	・頭髪服装等に関しては、継続的なきめ細かい指導が今後も必要である。 ・校内放送や掲示などを活用して、部活動だけでなく、1学年からの生徒会活動への参加を生徒にはたらきかけ、これをより活発にする。	

3	進路指導・支援	<p>①LHRや総合ガイダンスの年間計画を見直し、職業教育・進路指導を充実する。</p> <p>②生徒一人ひとりに応じた進路指導体制を充実させるとともに、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「生涯にわたる自分づくり」を主体的にできるよう、総合ガイダンスや進路説明会等を通して支援をする。 ・就業体験や現場実習に参加する生徒を増やし、体験報告会でプレゼンテーション能力を高める支援に取り組む。 ・進路のミスマッチを無くすため生徒や保護者との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業生に学ぶ会」や「職業理解ガイダンス」を通して自分が進む系や進路への理解を深める。 ・進路ガイダンスや地元企業の説明会を行ったり、クレペリンやSPI3模試などを実施したりして、生徒が自らの進路について考えられるよう支援する。 ・学年職員と連携し生徒の状況把握と書類準備等で個別指導を行う。 ・12月に進路説明会、2月に高校内企業説明会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ガイダンスを通じて生徒が進路決定出来たか。 ・就業体験への参加生徒が増加したか。 ・生徒が体験報告会でプレゼンテーション能力を高められたか。 ・進路のミスマッチを防ぐ事が出来たか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月時点で就職内定率100%を達成した。 ・12月に進路説明会(3社、17校)を、2月に高校内企業説明会(9社)を実施した。 ・2年のインターンシップの参加者は、昨年度よりやや減少した。 ・インターンシップの参加者は、昨年度よりも若干増加した。各系でのインターンシップの指導の成果が確認できた。 ・記録の冊子作り、3月の発表会に向けてのプレゼンテーションの準備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業界と連携したキャリア教育により、生徒の職業観・勤労観の育成を図ることが進んでいった。 ・卒業までに良い継続的な指導が必要である。 ・インターンシップや職場体験の参加生徒に対して、支援・指導を行った。 ・インターンシップの組織的な取り組みとして、今後も体制を維持するために職員の理解と職員協力の体制が不可欠である。今後も授業の一貫として校内での発表会を実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内定100%ではあるが、その後の就職等の調査はしているかが重要である。 ・就職メインの学校として、就職後の面倒もみるのは、アピールとして良いのではないかと考える。往復はがき等で2年後などにどうしているかリサーチし、その結果を集計すると、面倒見の良い学校としてアピールできるのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、卒業生に学ぶ会等の機会を設けキャリア教育の充実を図った。 ・求人数1000社を超えた。進学先は指定校推薦で入試に取り組んだ。 ・自分自身が進路を選択し、内定率は100%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路関係の行事を実施することで進路に対する意識を高めることができたのか。 ・生徒自身で進路選択をし、内定率100%を達成できたが、今後、就職・進学した生徒の追跡調査が必要と考える。
4	地域等との協働	<p>①工科高校の特長を活かした小、中学校への学習支援と家庭・地域との連携により、生徒に学びの大切さを理解させるとともに社会性を高める。</p> <p>②地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、地域に貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育力を地域や小中学校へ伝え、生徒主体の学校広報活動を充実させる。 ・近隣の学校や地域との連携を深めるため、工科高校の特長を生かした地域貢献活動に全校で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじさわ産業フェスタやイルミネーション湘南台など地域イベントへ積極的に参加し地域連携に取り組む。 ・わくわく体験教室や小学生との交流事業、高校体験プログラムの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへ積極的に参加し、生徒主体で工科高校の教育力を地域に伝え、学校広報活動ができたか。 ・各行事で本校生徒を主体的に参加させ、前年度比10%以上の増加になったか。 ・地域と交流する機会を通して生徒の社会性を育むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している地域イベントへ積極的に参加協力できた。また、ロボットセミナー(藤沢市)との連携や新規事業として若手職員対象の講師派遣や研修会(藤沢商工会議所)を実施予定である。 ・小学生の体験教室参加者が大きく減少した。中学生については昨年並み、高校生については昨年度より15%(52→60)増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する生徒募集や学校行事予定との日程調整について難しい点があるが、今後とも広報活動や新規事業の開拓について積極的に取り組み、地域との連携を更に深めていきたい。 ・小学生に対する広報活動が不足した。近隣小学校へは、チラシなどの配布やホームページを通じて周知する。本校生徒の参加については、年々数も増え、趣旨を理解し積極的になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少年少女ロボットセミナー等の協力に感謝している。 ・ベンチを市に寄贈していただき、感謝している。 ・子どもが子どもに教えるともっと学習の定着率が上がる。それを使うと良いのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボットセミナーについては、今年2年目になるが、授業を受けている時の生徒の顔つきと当日お手伝いしている顔つきが全然違うことに驚かされた。 ・作ったものがこんなに皆様に喜ばれるといった経験がないので、生徒が非常に喜んでいて、非常に良い経験をさせてもらっていると感じている。 ・参加した生徒が後輩たちに声をかけ、一緒にやろうよといった流れができていて、生徒は間違いなく成長している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングやレゴロボット等小学生に、ものづくりへの興味関心を高めるような内容を検討し、参加者を増やしてみたい工夫が必要である。 ・グループを作って、生徒同士で取り組ませるとうまく展開できると思う。
5	学校管理 学校運営	<p>①全職員が学校運営上の課題に迅速に対応できる体制づくりを行う。</p> <p>②地域、保護者から信頼された学校づくりを実践する。</p> <p>③生徒の防災意識を高める取り組みを実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の内容を充実させ、生徒の防災意識を高める。 ・積極的に社会参加する能力や態度を育成するため、家庭・地域と協働した教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルを改訂し、防災訓練を2回、実施する。 ・生徒会生徒や部活動の生徒と協力し、地域の防災訓練に参加する。 ・六会地区防災マップを活用し、災害図上(DIG)訓練を実施する。 ・HP等を活用した広報活動や情報提供を行う。 ・一斉メール配信システム(COCOメール)を導入し、新たな連絡体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災意識を高めることができたか。 ・地域、保護者の本校の教育活動に対する理解と信頼が向上したか。 ・HPアクセス数。 ・メール配信回数、加入者数。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを改訂し、授業時間の確保を視野に入れ防災訓練を2回実施して生徒に対する安全指導の深化を図った。 ・2回目には、防災備蓄食料の内容と保管場所を伝えた。球技大会の豚汁提供では、PTAの協力のもと、防災ベンチを活用し炊き出し訓練を実施した。 ・六会防災マップを使用し、2学期に環境委員の生徒と管理運営Gの教員で、災害図上(DIG)訓練を実施した。また、結果を文化祭で掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒参加による地域と連携した防災訓練が実施できるよう引き続き、企画立案していきたい。 ・災害図上(DIG)訓練を環境委員から発信し、多くの生徒が体験できるような工夫が必要である。 ・防災ベンチを地域にも積極的に役立てる工夫が必要である。 ・一斉メール発信回数は前年比、20%増になった。添付ファイルの送信が可能になったため保護者から好評であった。配信システムの加入率は90%近くになるが未加入者が無くなるようにしたい。 ・HPの管理については、専門的なスキルが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時用かまどベンチについて、火入れ式は、地域の参加者も多かった。自治体で、いろいろな場所で設置して欲しいという話もあった。今後、年間どの程度設置していく等の計画を立てる必要性があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取り組みで生徒の防災の意識は高まった。このような機会でも本校を知ってもらえることが、実際の災害時に避難場所として役立つことにつながるのかなと感じている。本校では敷地内のベンチをかまどベンチに変えていくことも考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な場所への設置については責任問題等もついてくるので、ハードルが高いといった一面もある。 ・予算については県が地域と連携するための予算がつくので、それを活用させていただきたい。